




## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 636 号	氏名	Florence Orim
学位審査委員	主 査 高村 昇 副 査 李 桃生 副 査 蒔田 直昌	  	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価          本研究は、甲状腺刺激ホルモン（TSH）シグナルが、<math>BRAF^{V600E}</math> 甲状腺癌マウスモデルにおける腫瘍に与える影響を検討するものであり、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価  <math>BRAF^{V600E}</math> 甲状腺癌マウスモデル（Tg-BRAF2）と Tsh レセプターノックアウトマウス（TshRKO）とを交配させて4グループのマウス群を作製し、それぞれ12週、24週で甲状腺組織を摘出して免疫組織学的検査、マトリゲル浸潤アッセイ等で検討したもので、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価          上記手法で解析した結果、Tg-BRAF2/TshR<sup>+/+</sup>群及び Tg-BRAF2/TshR<sup>-/-</sup>群ではヒト甲状腺乳頭がん（PTC）によく似た組織像を示したが、Tg-BRAF2/TshR<sup>+/+</sup>群では被膜浸潤や solid なパターンが高頻度に見られたのに対し、Tg-BRAF2/TshR<sup>-/-</sup>群ではアポトーシス細胞がみられた。これらの結果は、TSH シグナルがマウスの甲状腺腫瘍の悪性度をより高める作用があることが明らかにするもので、TSH と甲状腺がんリスクとの関連に新たな知見をあたえるものである。</p> <p>以上のように本論文は甲状腺がん発症・進展のリスク因子解明に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			

(注) 報告番号は記入しないこと